

1 災害想定の把握

防災マニュアルの作成や避難場所、避難方法等を検討するうえで、自園のある地域が地震や津波によりどのような災害（震度、津波高・浸水深、液状化、地すべり等）が想定されているか、正確に把握することが大切です。

内閣府の有識者検討会が平成 24 年 3 月 31 日に東海、東南海、南海地震を起こす南海トラフで、これらの想定震源域が連動し、最大級の地震が起きた場合の震度分布と津波高の推計を公表しました。

本県においては、10 市町で最大津波高が 20 メートル以上、震度はほぼ県内全域の 30 市町村で震度 7 の激震となると推計されています。特に、黒潮町と土佐清水市では 30 メートルを超す津波高となっており、従来の想定を大きく上回る推計値が示されました。

今回公表された最大津波高の推計は、発生頻度は極めて低いものの、発生すれば甚大な被害をもたらす最大クラスの津波を想定したものであり、南海トラフ沿いで次に起こる地震・津波を予測したものではなく、また、何年に何パーセントという確率を念頭に想定したものでもありません。

今後、内閣府では、津波高についてさらに精度の高い推計を行うため、推計結果によって、今回の推計結果は変わりうるものです。

さらに、本県においては、その公表を基に地震動・津波浸水予測結果を出す予定となっています。

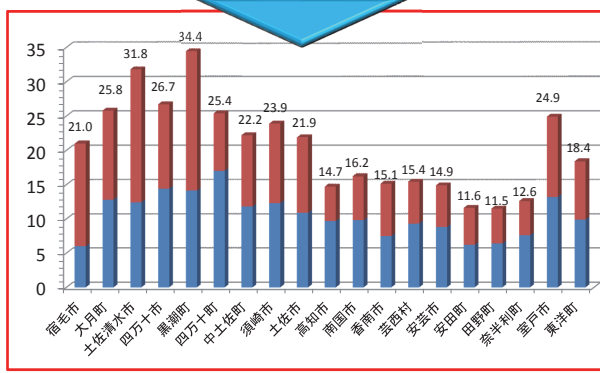
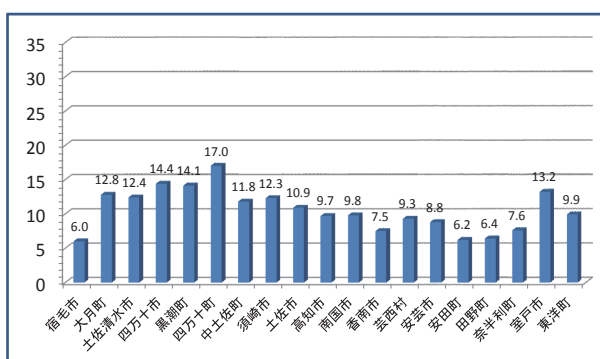
各園では、今後出される災害に関する情報を正確に把握し、正しい理解をすることが重要です。

平成 15 年の想定と今回（平成 24 年 3 月 31 日公表）の想定と比較

震度

市町村	最大クラス (重ね合わせ)	中央防災会議 (2003)
高知市	7	6強
室戸市	7	6強
安芸市	7	6強
南国市	7	6強
土佐市	7	6強
須崎市	7	6強
宿毛市	7	6強
土佐清水市	7	7
四万十市	7	7
香南市	7	6強
香美市	7	6弱
東洋町	7	6強
奈半利町	7	6強
田野町	7	6強
安田町	7	6強
北川村	7	6強
馬路村	6強	6弱
芸西村	7	6強
本山町	7	6弱
大豊町	7	6弱
土佐町	7	6弱
大川村	6強	5強
いの町	7	6強
仁淀川町	6強	5強
中土佐町	7	7
佐川町	7	6強
越知町	6強	6強
橋原町	7	5強
日高村	7	6強
津野町	7	6弱
四万十町	7	7
大月町	7	6強
三原村	7	6強
黒潮町	7	6強

津波高



※最大震度、最大津波高は、いくつかの地震発生ケースのうち、各市町村で最大となった地点の推計値が示されたもので、各市町村全域に対する推計ではない。（最大津波高は、海岸線における津波高。）

※市町村別・ケース別の最大震度・最大津波高は、資料編（1～2ページ）に掲載。

「南海トラフの巨大地震による震度分布・津波高について（第一次報告）」の詳細は、下記のホームページに掲載されています。

※内閣府ホームページ

「南海トラフの巨大地震モデル検討会」

http://www.bousai.go.jp/jishin/chubou/nankai_trough/nankai_trough_top.html